



な かせ ひさはる
中瀬 喜陽 氏

生年月日 昭和 8 年 2 月 21 日生

住 所 田辺市神子浜一丁目

昭和 8 年 (1933 年) 2 月 21 日、西牟婁郡市ノ瀬村 (現西牟婁郡上富田町市ノ瀬) で生まれる。

和歌山県立田辺高等学校を卒業後、我が国古典文学への強い憧れから上京し、東洋大学文学部中国哲学文学科に進学。住み込みで働かせてくれる書店を探し、そこで働きながらの学生生活を送った。

昭和 35 年 (1960 年)、大学を卒業後、上富田町立岩田中学校教諭を経て、和歌山県立南紀高等学校の国語教諭を長く勤め、大阪青山短期大学の非常勤講師として教壇に立つ。

氏は、そうした教職の傍ら、当地方の文学、歴史、民俗など、地方文化の研究に取り組み、中でも南方熊楠や武蔵坊弁慶の研究に情熱を注いできた。

特に、30 数年前に出合った世界的博物学者である南方熊楠の書簡でその人柄に魅せられたことから、熊楠に関心を寄せ、以来、熊楠研究をライフワークとして力を傾けてきた。その成果は熊楠の残した膨大な自筆資料 (書簡、日記、原稿) の発掘と解説、関係者からの聞き取りなどとなり、『南方熊楠アルバム』『覚書南方熊楠』等多くの著書となって結実し、今日の南方熊楠研究の発展に大きく貢献した。資料の発掘、調査研究を精力的に続ける一方、最近では、市民や研究者を対象に熊楠自筆資料の解説講座を開くなど、後進の指導にも取り組む。

さらに、こうした研究者としての活躍だけでなく、昭和 62 年 (1987 年) に発足した南方熊楠邸保存顕彰会の生みの親の一人として尽力するとともに、以来、理事、常任理事として、長年にわたり顕彰会の中心的な役割を担い、熊楠邸の保存と翁の業績の顕彰に果たした功績は誠に大きい。

一方、武蔵坊弁慶の研究にも精力を傾け、平成 3 年 (1991 年)、弁慶を通して熊野地域を分析した著書『世界の熊野一弁慶の土壌』を発表した。

この他、熊野古道に光を当てた出版事業である「くまの文庫」の企画委員として編さんの中心的役割を担ったほか、文化財の調査保存や田辺市史編さんなどにも尽力し、平成 14 年 (2002 年) 現在、紀南文化財研究会副会長、田辺市文化財審議会副委員長、田辺市史編さん専門委員、田辺市文化協会副会長など数々の要職にあつて、地域文化の振興に大きな役割を果たしている。

第 33 回 (平成 14 年)

また、俳誌「貝寄風」を主宰するとともに、田辺市俳句連盟会長、「よみうり和歌山文芸」俳句選者として、この地域での俳句の普及発展と後進の指導にも尽力している。

こうした長年にわたる地域文化振興への功績により、平成 4 年 (1992 年) には和歌山県文化奨励賞を、さらに平成 11 年 (1999 年) には文部大臣表彰を受賞している。

(略 歴)

昭和 35 年 (1960 年) 3 月	東洋大学文学部中国哲学文学科卒業
昭和 35 年 (1960 年) 4 月	上富田町立岩田中学校教諭
昭和 39 年 (1964 年) 4 月	和歌山県立南紀高等学校教諭
平成 5 年 (1993 年) 4 月	大阪青山短期大学非常勤講師

(その他)

南方熊楠邸保存顕彰会理事、常任理事
紀南文化財研究会理事、副会長
田辺市文化財審議会委員、副委員長
田辺市史編さん専門委員
田辺市文化協会理事、副会長
田辺市俳句連盟幹事、副会長、会長
俳誌「貝寄風」編集長、主宰

(主な著書)

『熊野中辺路 詩歌』 (著 S50 熊野中辺路刊行会)
『説話世界の熊野—弁慶の土壌』 (著 H3 日本エディタースクール出版部)
『覚書南方熊楠』 (著 H5 八坂書房)
『南方熊楠独白』 (編著 H4 河出書房新社)
『南方熊楠書簡—盟友毛利清雅へ』 (編 S63 日本エディタースクール出版部)
『南方熊楠・門弟への手紙—上松濤へ』 (編 H2 日本エディタースクール出版部)
『南方熊楠アルバム』 (共編 H2 八坂書房)
『父南方熊楠を語る』 (共著 S56 日本エディタースクール出版部)
『南方熊楠を知る事典』 (共著 H5 講談社)
『素顔の南方熊楠』 (共著 H6 朝日新聞社)
『奇想天外の巨人南方熊楠』 (共著 H7 平凡社)
『熊野古道』 (共著 H7 向陽書房)
句集『若王子』 (著 S61 本阿弥書店)

(受賞歴)

昭和 55 年 (1980 年) 2 月	和歌山県教育研究奨励賞 (地方文化史の調査と研究)
平成 4 年 (1992 年) 2 月	和歌山県文化奨励賞
平成 11 年 (1999 年) 11 月	文部大臣表彰 (地域文化の振興)